

行動・体験中心の教室活動 を
デザインしてみよう
～「教材例集」を参考に～

2014年8月30日 於 昭和女子大学

堀 永乃
(一般社団法人グローバル人財サポート浜松)

第2分科会の流れ

0. はじめに
1. 地域日本語教育とは？
2. カリキュラム案についておさらい
3. 行動・体験中心の活動について
4. 行動・体験中心の活動のデザインについて
考えてみよう
5. 教材例集活用の留意点
6. まとめ
7. 質疑応答

0. はじめに

- ・グループに分かれて、参加者同士の自己紹介
- ・分科会2で使用する5点セットの確認

1. 地域日本語教育とは？

- 地域日本語教育の「2W1H」

- for What なのため？
- Whom だれのため？
- How どのように？ どのくらい？

2. カリキュラム案について

「カリキュラム案」の背景

○平成19年7月

- ・定住外国人の増加を受け、文化審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置。

○平成20年1月

【報告書】「今後検討すべき日本語教育の課題」

⇒地域社会の一員として外国人が社会参加するのに必要な日本語学習の支援で、以下の3点について早急に検討が必要

- ① 内容の改善
- ② 体制の整備
- ③ 連携協力の推進

日本語教育の内容・方法の改善における成果物

「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

教室活動の内容について

学習者について



教室活動のデザインと参加

行動・体験中心の教室活動への参加
による日本語学習、相互理解

参加



指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成：平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成：平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成：平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行動を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成：平成24年1月31日

能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成：平成24年1月31日

「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

教室活動の内容について

学習者について



教室活動のデザインと参加

行動・体験中心の教室活動への参加 による日本語学習、相互理解

参加



指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】

日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成：平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成：平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせてときのポイントの解説

【内容】

カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成：平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】

カリキュラム案で取り上げている生活上の行動を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成：平成24年1月31日

能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】

学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称

「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成：平成24年1月31日

標準的なカリキュラム案とは

P. 1

【基本的な考え】 「生活者としての外国人」のための日本語教育：**対話による相互理解の促進**とコミュニケーション力の向上を図り、「生活者としての外国人」が日本語を用いて**社会生活に参加できる**ようになることを目指す
→そのための具体的な内容やプログラムを検討・作成する際の基となる

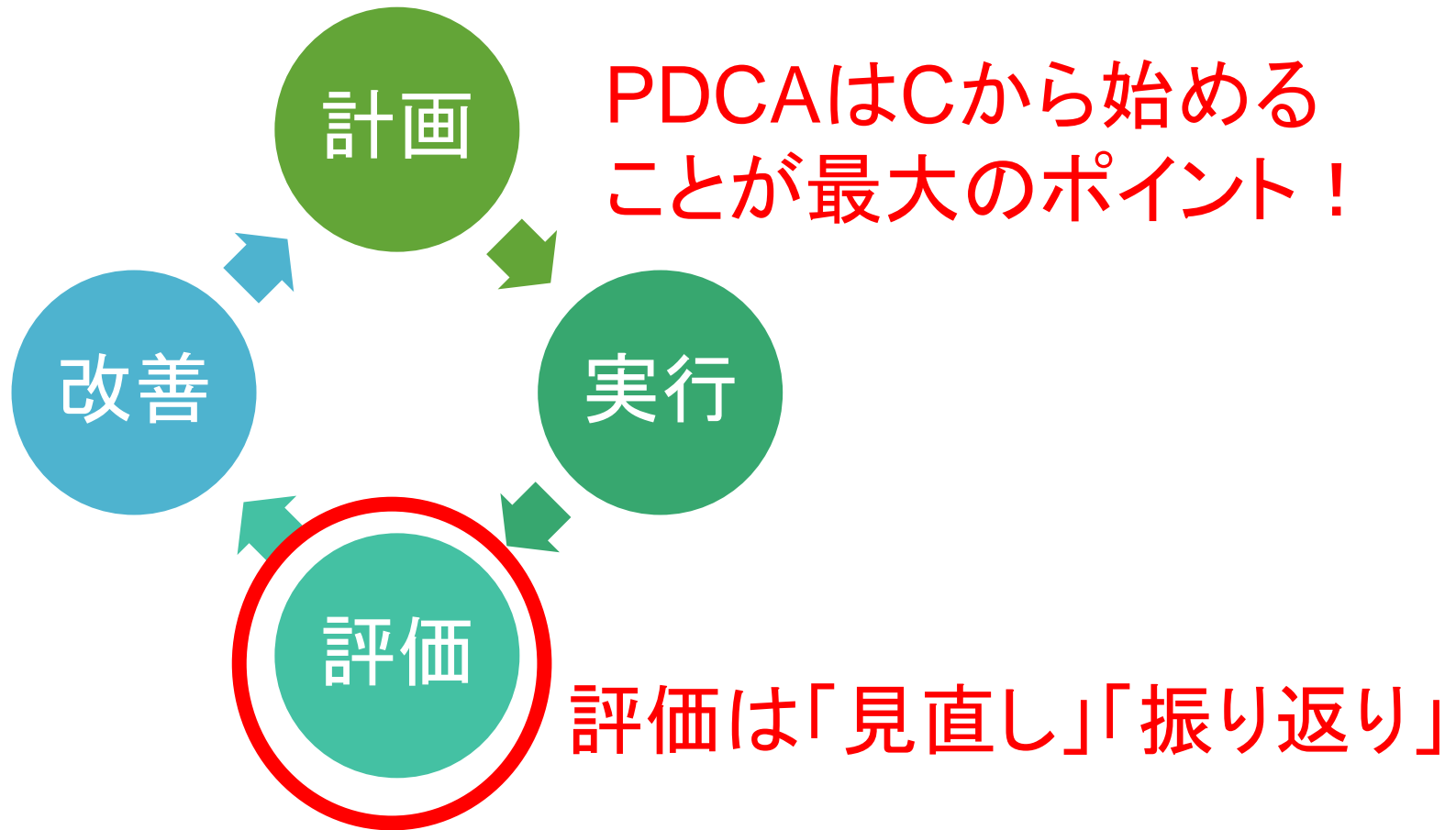
【内容】 **生活上の行為の事例**・・・**能力記述**、言語要素、社会・文化的な情報など

【利用者】 自治体等の日本語教育担当者、日本語教育コーディネーター的役割者、教室活動を行う人

- 健康・安全に暮らす
 - ・ 健康を保つ
 - ・ 安全を守る
- 住居を確保・維持する
 - ・ 住居を確保する
 - ・ 住環境を整える
- 消費活動を行う
 - ・ 物品購入・サービスを利用する
 - ・ お金を管理する
- 目的地に移動する
 - ・ 公共交通機関を利用する
 - ・ 自力で移動する
- 人とかかわる
 - ・ 他者との関係を円滑にする
- 社会の一員となる
 - ・ 地域・社会のルール・マナーを守る
 - ・ 地域社会に参加する
- 自身を豊かにすることができる
 - ・ 余暇を楽しむ
- 情報を収集・発信する
 - ・ 通信する
 - ・ マスメディアを利用する

「労働」「教育」に関するもの→「カリキュラム案」119ページ:別紙Ⅱ 基礎資料に

PDCAサイクルで



3. 行動・体験中心の活動について

カリキュラム案を使って何をすればいいの？

行動・体験中心の活動って？

言語学習についての考え方

◆ 言語学習

学習者が「できるようになりたい」と望む生活上の行為を選ぶことで言語学習が進む

◆ 教室活動

生活上の行為と教室活動がつながっていること
⇒ 体験・行動中心の活動

◆ 日本語教室から地域社会へ

学習者の主体性を重視→学び続ける生涯学習へ
地域住民との協働活動を取り入れる→対等な人間関係
⇒ ネットワークの構築
⇔ 自立

自己実現のために

カリキュラム案を教室活動に活用するポイント

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：
→対象となる学習者の状況、生活課題、ニーズを捉えることから出発
*「生活上の行為の事例」一覧表(5言語)を活用
- ② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計
- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫

4. 行動・体験中心の活動のデザインについて考えてみよう

行動・体験中心の活動のデザイン を考えてみよう①

① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：

→対象となる学習者の状況、生活課題、**ニーズを捉える**ことから出発

*「生活上の行為の事例」一覧表(23言語+日本語ひらがな付)を活用

学習者は「**日本語で何ができるようになりたいのか**」

⇔学習者が日本語でどのような行為をすることができたら、課題を乗り越えられるのか

⇔ニーズ≠思い込みや押しつけではない

何が**できる**ようになるのか

行動・体験中心の活動のデザイン を考えてみよう②

②実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計

→どうやって？ どのようにして？

③専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる

→誰が？ 誰と？ 誰に理解を求めるのか？

「協働(巻き込む)」相手は意外と身近にいる！

④対話による相互理解が促されるように活動を工夫

→立ち位置はいつもぐるぐると変わっていい

顔が見える関係づくりが大切！

日本語教育は手段である

たとえば・・・

- 対象（誰に・誰のための）

在住外国人コミュニティのリーダー的存在の人
※中級レベルの日本語ができる

- ニーズ（何のため・何ができるようにする）

自分の基本的な情報を伝え、初対面の人と良好な人間関係を築く

TPOにあったあいさつを学びたい

名刺交換の仕方がよくわからない

なぜ、ニーズがわかったのか？

日頃から、「こういうのを学びたい」という声があった

既に通訳や語学講座の講師等で活躍している人に、どういう日本語が必要なのかをあらかじめ聞いていた

→ **ニーズ把握は、外国人の声を拾うこと**

生活上の行為の事例Ⅶ

「人とかかわる」

14 他者との関係を円滑にする

(31) 人と付き合う

TPOに合った適当なあいさつ形式を理解する

あいさつの文化的相違を理解する

人間関係のきっかけを作るあいさつをする

自己紹介の仕方を理解する

相手や状況に応じた自己紹介の仕方を理解する

教材例集を見てみよう！

「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

教室活動の内容について

学習者について



教室活動のデザインと参加

参加



行動・体験中心の教室活動への参加
による日本語学習、相互理解

指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成：平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成：平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成：平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行動を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成：平成24年1月31日

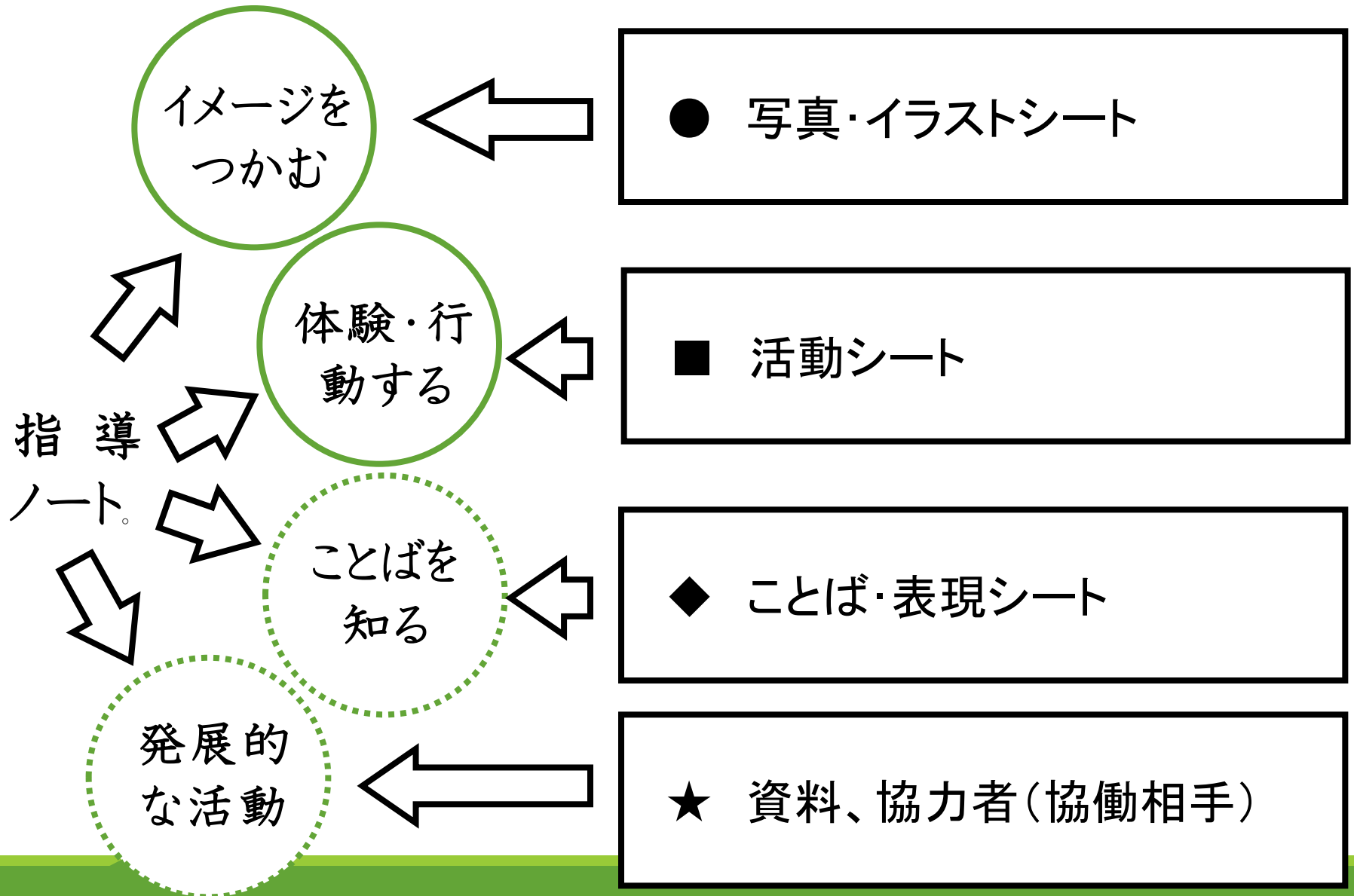
能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成：平成24年1月31日



イメージを
つかむ

● 名刺交換のシーン

体験・行
動する

■ 自己紹介(会話例2)

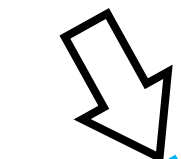
ことばを
知る

◆ 敬語・丁寧体

発展的
な活動

★当事者を入れてロールプレイ
をやってみる

指導
ノート



気づきましたか？

何か足りない！実は必要なこと

「名刺交換」は意外と難しい

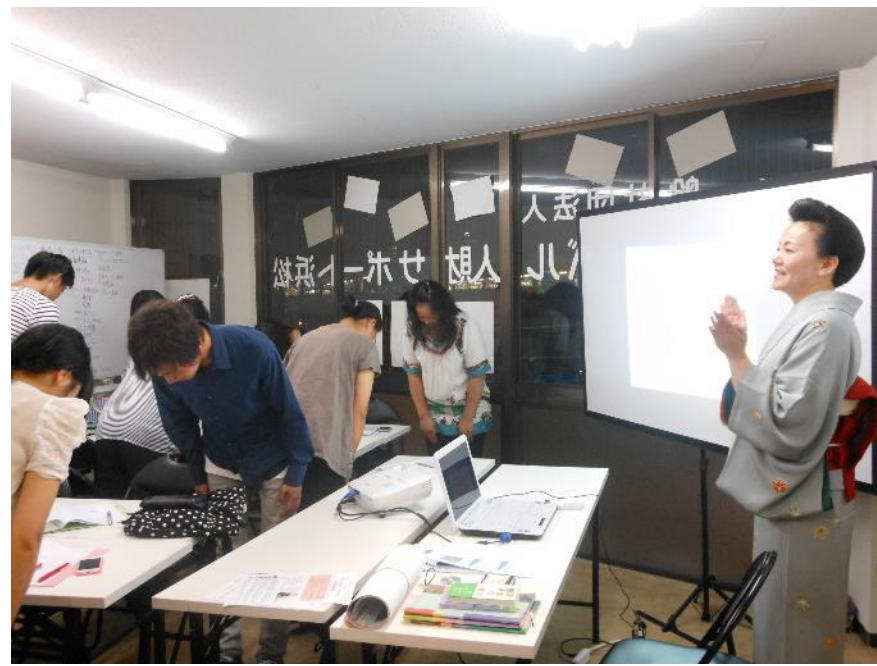
日本人は「名刺」が大好き！という事実でも、教材例集に書いていない・・・

⇒つまり、内容を加える必要があった

教室活動の設計に合わせると・・・

- ① 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫：
⇒ 外国人リーダーがTPOに合わせたあいさつをして、名刺交換をしながら適切な自己紹介ができる
- ② 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計
- ③ 専門家・地域住民との協働の活動を取り入れる
- ④ 対話による相互理解が促されるように活動を工夫
⇒ 旅館の女将を講師に迎え、実践型会話練習を行う

当事者同士が学び合う



WIN-WINの関係

行動・体験中心の活動のデザインを考えてみよう③

◆対象；外国人技能実習生

来日半年、自動車部品工場勤務

◆ニーズ；人に道を尋ねて、目的地にたどり着けるようになる

グループで活動をデザインしよう

◆ 目標 何ができるようにするのか→ニーズ把握を！

人に道を尋ねて、目的地にたどり着けるようになる

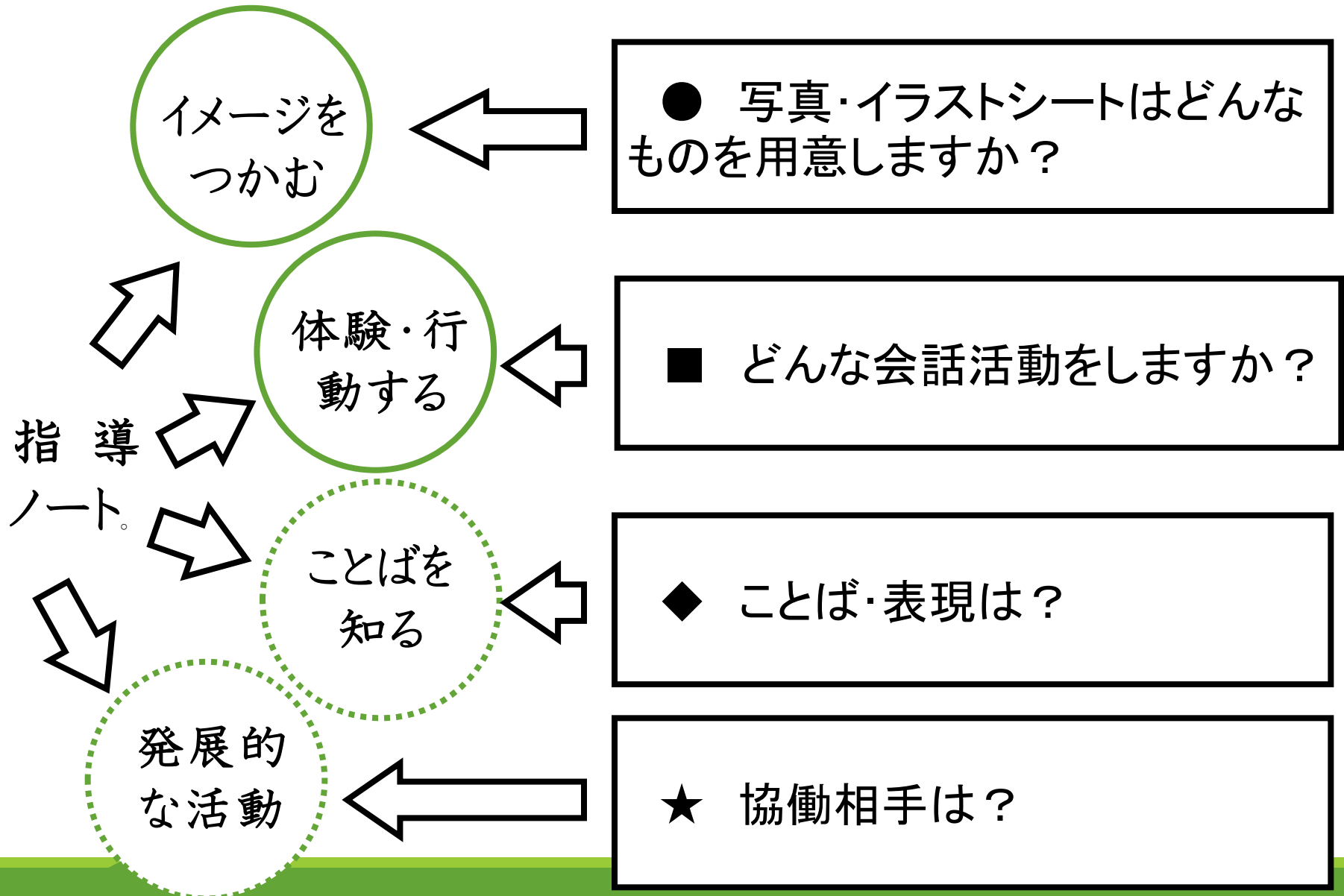
◆ 内容(なにを)

◆ 方法

(だれと:協働相手)

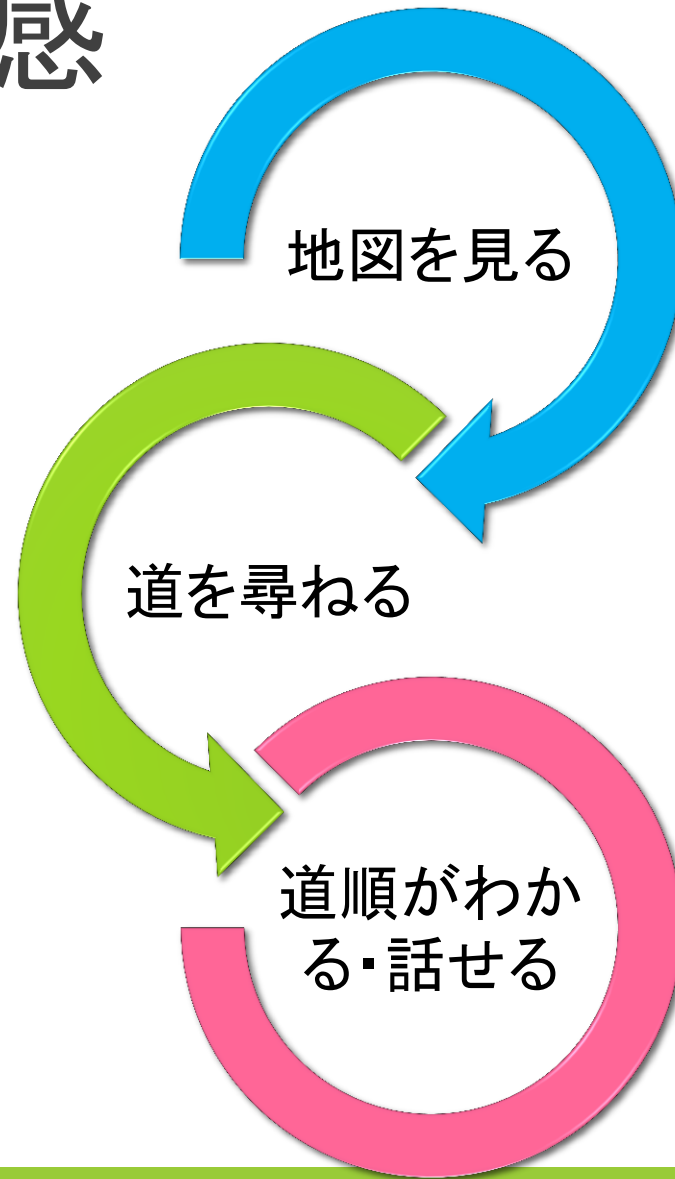
(どうやって:教材)

教材例集に当てはめてみると・・・

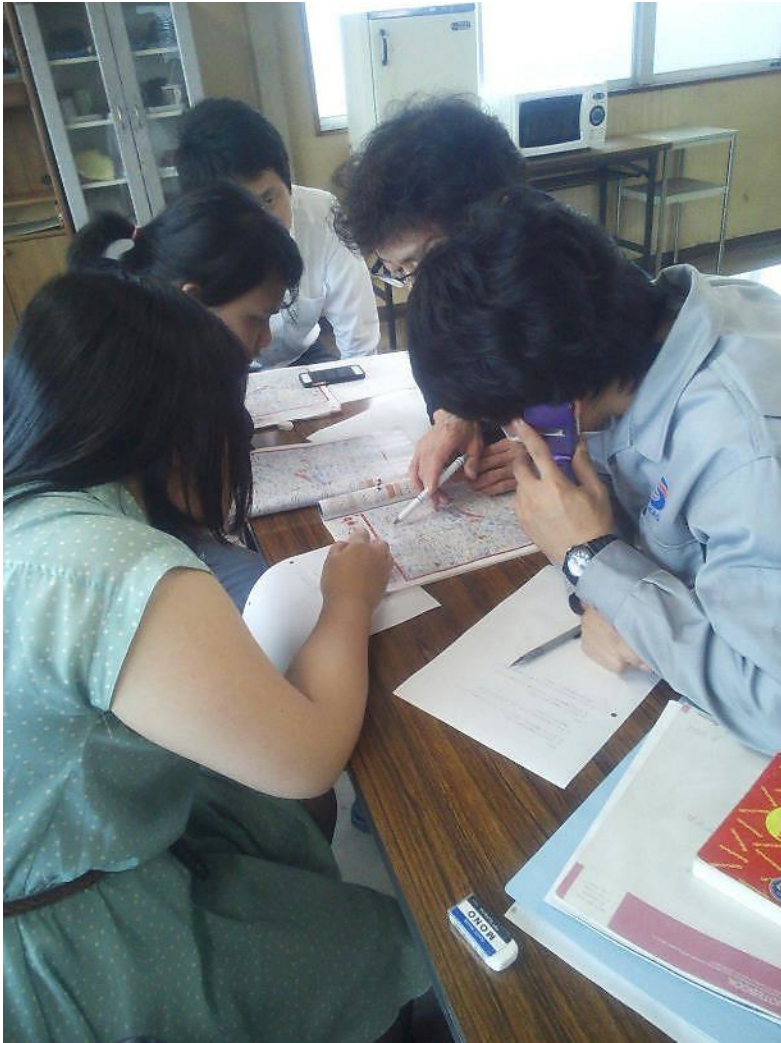


発表・共有してみましよう

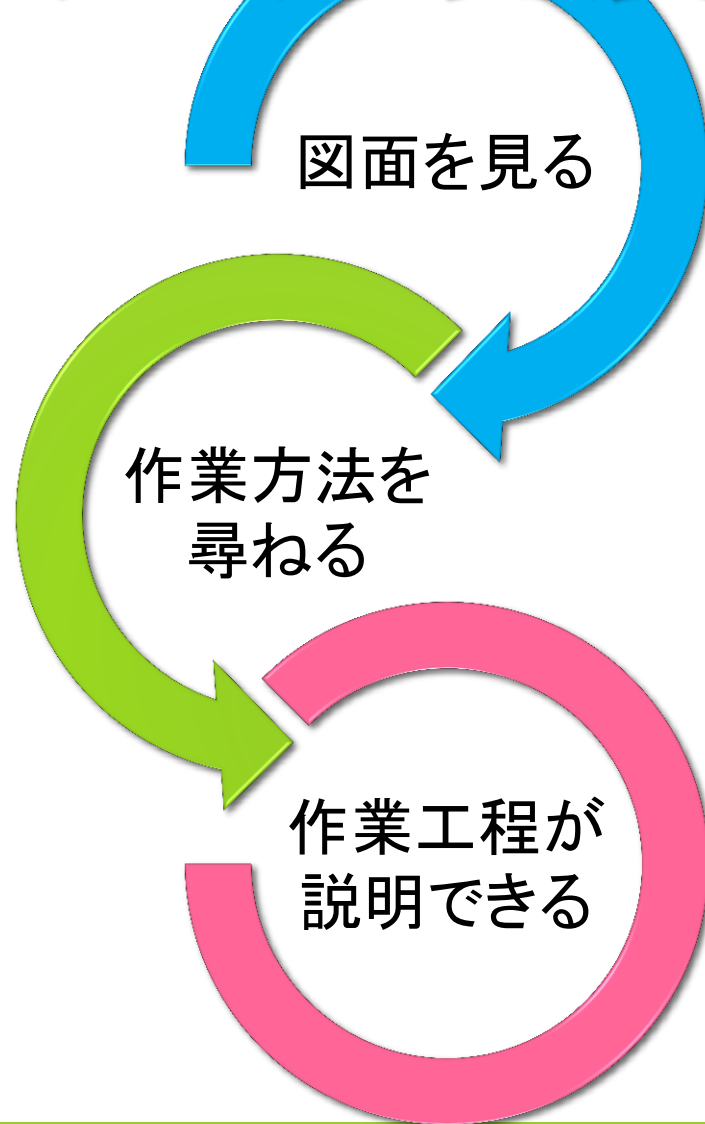
目標と達成感



携帯電話を使って工夫する



内容がリンク・発展していく



折り紙で会話を弾ませることもできます



4. 教材例集活用の留意点

「教材例集」活用の留意点

「『教材例集』中の教材例を使用する際には、適宜修正を加えて、地域の実情や学習者の日本語レベルに合わせて、教材例の内容に手を加えたり、多言語情報を活用したり、母語話者の協力を得る等、**工夫を行うことが必要**」
(『教材例集』p.4, 『ガイドブック』p.4)

教材例集は「レシピ集」

まとめ

- ◆ 学習者自身が生活の中で実際に必要性を感じ、「できるようにになりたい」と望む生活上の行為を適切に選ぶ → 積極的な言語学習につながる
- ◆ 実際に「できるようになる」ために、行動・体験中心の活動を設計
- ◆ 学習者の主体性の重視 → 生涯学習
- ◆ 学習の過程においても地域住民との協働活動ができるだけ取り入れる → 教室の活動が、日常生活における対等な人間関係、ネットワークの構築につながっていくように

新たに参入する「生活者としての外国人」にとって、日本語習得はそれ自体が最終目標ではありません。

獲得された意思疎通の手段により、**人とつながること**、**言葉の壁によって発揮できなかった自分らしさや力**を取り戻したり、**発揮できたりするようになること**、そして**社会の一員として自立**し、**社会生活のあらゆる領域に参画**すること、つまり**「エンパワメント」を実現すること**によって初めて**目標に到達した**ということが出来ます。そのことをしっかりと見据えて、**地域における具体的なプログラムを構築することが必要**です。

(文化庁『生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』p.3)

わかる喜びから伝わる喜び、
わかりあえる喜びへ……



日本語教室は「回転扉」 社会に飛び出す勇気を！



ご清聴、ありがとうございました